

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2016年1月)

【内政】

1 液化天然ガス再気化事業

7日、バスケス大統領はマクリ・アルゼンチン大統領との首脳会談後の記者会見で、液化天然ガス再気化事業について、「ウルグアイの液化天然ガス再気化事業で生産されたガスのアルゼンチンへの販売交渉に進展が見られ、アルゼンチンがウルグアイのガスを購入することで実質的に具体化した。アルゼンチンへのガス販売は概ね1年以内を実現するであろうが、そのためにウルグアイはガス再気化施設の建設を適当な期間内に終える必要がある。本年3月には、船舶型ガス再気化設備を建造中の日本企業 MOL(商船三井)の社長がウルグアイを訪問し、両国の実質合意の詳細について詰めの話し合いを行う予定である。」と発言した。

2 燃料アルコールセメント公社(ANCAP)の経営問題

4日、法律第19.368号により、燃料アルコールセメント公社(ANCAP)が一部株式会社化された。ANCAPの株式会社化法案は昨年12月24日に議会に提出され、12月29日に上院で、1月3日に下院でそれぞれ与党FAの賛成多数により可決成立した。同法は、経済財務省の出資によるANCAPの債務帳消し、現在の為替レートで約6億2,200万米ドルを上限として同社の資本を株式化すること等を認めたもの。

3 労働問題

- (1)21日付政令16/016により、1月1日から最低賃金が月額11,150ペソに引き上げられた。大統領府によれば、今回の賃上げ率は11.5%であり、2015年における平均インフレ率9.44%を上回るものである。11.5%の賃上げ率は昨年6月に政府が提示していたもの。労働組合側は月額15,000ペソを主張していた。
- (2)22日付政令19/016により、1月1日から公務員(大統領府及び13の省、憲法220条が定める国家機関に勤務する職員)給与が9.44%引き上げられた。

【外交】

1 対日関係

20日、山田實紘ライオンズクラブ国際会長が第45回ラテンアメリカ・カリブ・ライオンズクラブ・フォーラム出席のため来訪、ロバジョ大統領府副長官と会談した。

2 二国間関係

(1)マクリ・アルゼンチン大統領の来訪

7日、マクリ・アルゼンチン大統領が当国を訪問した。アルゼンチン大統領のウルグアイ訪問は12年ぶり。首脳会談では二国間通商関係、ラプラタ及びウルグアイ河の浚渫、新たな二国間交通手段、エネルギーの相互融通、メルコスール、国連安保理等について話し合われた。大統領府によれば、今回の会談で、両国境周辺地域の環境共同管理、大気・水質・土

壤管理研究所の設置, ウルグアイの液化天然ガス再気化事業で生産されたガスのアルゼンチンへの販売, 二国間港湾政策戦略計画の策定, アルゼンチンを出港する船舶の積荷のウルグアイでの積み替えを禁止するアルゼンチン政府の政令の廃止, 2030年サッカーワールドカップ大会のホスト国への共同立候補について合意に至った。

- (2) 25日付「エル・オブセルバドール」紙は, アルゼンチンの前フェルナンデス政権下で制定された, アルゼンチンを出港する船舶の積荷のウルグアイでの積み替えを禁止する措置がマクリ政権により解除されたことを受け, 2月からアルゼンチンの貨物船がモンテビデオ港に寄港し, 積み替え作業が再開される見込みであると報じた。
- (3) 25日付大統領府プレスリリースによれば, ウルグアイ・アルゼンチン両政府は, アルティガス県ベジャ・ウニオンとアルゼンチン・コリエンテス州モンテ・カセロスを結ぶ国際橋梁建設の可能性を検討中である。フィージビリティ調査が近く始まる見込み。実現すればウルグアイ河に架かる国際橋梁としては4本目。

3 メルコスール

7～8日付各紙報道によれば, バスケス大統領はメルコスール議長国として3月又は4月にベルギーを訪問し, EU側と自由貿易協定交渉につき話し合いを行う予定である。またニン・ノボア外相は, ウルグアイ政府はEU以外に太平洋同盟, 日本及び米国との関係強化に関心を有していると発言した。

4 国際関係

- (1) 18日付で外務省は, イランの核開発に関するイラン・P5+1合意に定められた包括的共同行動計画(JCPOA)をイラン政府が全て実行したとするIAEAの報告書が提出されたことに満足の意を表し, NPT加盟国として同合意に関わる全ての当事者を祝福する旨の声明を発出した。
- (2) 20日付で外務省は, コロンビア政府とコロンビア革命軍(FARC-EP)との間で行われていた, 「武力による戦闘行為の完全な相互停止及び武器の放棄」に関する監視・検証メカニズム交渉が合意に至ったことに満足の意を表し, コロンビア政府及びFARC-EPの要請に基づき, 国連安保理議長国としての立場から, 国連政治ミッションの編成に貢献すべく必要な行動をとる旨の声明を発出した。
- (3) 27日, センディック副大統領がエクアドルのキトで開催された第4回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)首脳会合に出席した。演説で同副大統領は, 一次製品の国際価格が下落するなかで, 貧困削減, 教育と知識, 投資の維持, 天然資源及び環境への配慮等に取り組むことがCELAC加盟国の政府の課題であると述べた。またハイチ大統領選挙について, 決選投票の確実な実施を同国選挙管理委員会に要請した。

【社会】

1 治安

- (1) 2015年5月から発行されている生体認証型IDカードについて, これまで, 同IDカードの保持

者が公的機関を訪問する際、同IDカードを受付で係に預けることが慣例になっていたが、法律により1月1日以降、同IDカードを預けておくことが禁止された。

- (2)内務省の発表によれば、2015年の薬物犯罪取締結果は次の通り。麻薬取締局により大麻1トン超、コカイン144キロ、パスタ・バセ201キロ、その他銃器、売上金等が押収、薬物密売に関与した1265人が拘束、405人の実刑判決を得た。
- (3)4日、内務省は1月1日の新警察法施行に伴い、警察刷新政策の一環として警察官千人を街頭警らに配置し、それに伴い警らに従事する警察官に対し月額一人当たり1万ペソ(約4万円)を上乗せ支給すると発表した。
- (4)10日、ブラジル人麻薬組織「コマンド・ベルメロ」ナンバー2のパウロ・ビエイラ・デ・メロがモンテビデオ郊外のシウダ・デ・ラ・コスタのスーパーマーケットで非番の警察官に目撃され、逮捕された。同人はカラスコ地区の別荘を拠点としてパラグアイ、ボリビア及びブラジルにわたる麻薬取引ネットワークを構築しようとしていた。ウルグアイ国内に国際犯罪組織が存在するとのボノミ内務大臣の主張が裏付けられた。
- (5)11日、ボノミ内務大臣は2016年中に3機のヘリコプターと2機の飛行機を犯罪警戒のために導入することを決定した。同機は昼夜運用され、パイロットには1万5千ペソ、乗客には1万ペソの加算給与がある。

2 その他

- (1)15日付大統領府プレスリリースによれば、2015年中にウルグアイを訪問した人の数は計29万6千4、841人にのぼり、前年度比で5%、人数で前年より20万人増加した。アルゼンチン人入国者数は15.3%増加したのに対し、ブラジル人入国者数は7%減少した。訪問先は多い順でモンテビデオ、プンタデルエステ、サルト及びパイサンドウの温泉地区、コロニアが好まれた。
- (2)18日、厚生省はサルト県全体に公衆衛生上の緊急事態を宣言した。最近の洪水により感染症の拡大が懸念されたことを考慮し、内臓リーシュマニア症の人間への感染を防止するための措置。リーシュマニア症は6年前にアルティガス県で始めて媒介虫であるサショウバエの存在が確認されて以降、パイサンドウ県及びサルト県に拡大した。2015年2月に犬への感染確認、同年12月には上記3県で計数十匹以上の感染が確認された。感染した犬は殺処分された。
- (3)21日、カラスコ国際空港にAlas Uruguay社のアスンシオン(パラグアイ)行き第一便が就航した。Alas Uruguay社は2013年、前年に経営破綻した国営Pluna航空の元職員により設立された自主管理会社であり、国家開発基金(Fondes)の貸し付けを受けている。今後ブエノスアイレス、サンパウロ、サンティアゴ便が順次就航する見込み。
- (4)1月にNGO トランパレンシー・インターナショナルが発表した腐敗認識指数2015年版によれば、ウルグアイは調査対象168カ国中21位で、南米で最も汚職の少ない国になった。2014年版でウルグアイはチリと並び南米1位であったが、15年はウルグアイがチリを抜いて南米1位となった。

(了)